

## 国立民族学博物館研究報告 vol.5-2; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	5
号	2
発行年	1980-10-20
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009253">http://hdl.handle.net/10502/00009253</a>

1980・6 5<sub>卷</sub>2<sub>号</sub>

# 国立民族学博物館 研究報告

●  
ハワイにおける日系霊能者と民間信仰

——オアフ島の女性霊能者の事例—— 中牧弘允

二者関係と経済取引——中部ジャワ村落経済生活の研究—— 関本照夫

チベット語の色彩語彙—— 長野泰彦

貝塚データベース——その作成と応用—— 及川昭文・宮本定明・小山修三

民族学データの統計的解析のための汎用ソフトウェアシステム

——民具データへの応用を中心として—— 八村廣三郎

ヨーロッパ民家の民族学的・地理学的研究

——野外博物館の民家を中心として—— 杉本尚次

A Note on Palauan Food Categories:

*Odóim* versus *Ongráol*—— AKIMICHI, Tomoya



国立民族学博物館

〒565 大阪府 吹田市 千里 万国博記念公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

5 卷 2 号

1980年6月

## 目 次

ハワイにおける日系霊能者と民間信仰 ——オアフ島の女性霊能者の事例——	中牧 弘允	317
二者関係と経済取引 ——中部ジャワ村落経済生活の研究——	関本 照夫	376
チベット語の色彩語彙	長野 泰彦	409
貝塚データベース ——その作成と応用——	及川 昭文 宮本 定明 小山 修三	439
民族学データの統計的解析のための汎用ソフトウェアシステム ——民具データへの応用を中心として——	八村廣三郎	471
ヨーロッパ民家の民族学的・地理学的研究 ——野外博物館の民家を中心として——	杉本 尚次	493
A Note on Palauan Food Categories: <i>Odóim</i> versus <i>Ongráol</i>	AKIMICHI, Tomoya	593
彙 報		611
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		614
国立民族学博物館研究報告執筆要領		615

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 5 No. 2

June 1980

---

NAKAMAKI, Hirochika	Japanese Religious Mediums and Folk Belief among Japanese Americans in Hawaii: Female Mediums on Oahu Island .....	317
SEKIMOTO, Teruo	Paddy Fields and Complementary Occupations: Economic Life in a Central Javanese Village .....	376
NAGANO, Yasuhiko	Tibetan Color Terminology .....	409
OIKAWA, Akifumi MIYAMOTO, Sadaaki KOYAMA, Shuzo	A Jomon Shellmound Database: Its Compilation and Application.....	439
HACHIMURA, Kozaburo	A Versatile Software System for Ethnological Data Analysis .....	471
SUGIMOTO, Hisatsugu	An Ethnological and Geographical Study of European Rural Houses, with Special Reference to Rural Houses in Open-Air Museums .....	493
AKIMICHI, Tomoya	A Note on Palauan Food Categories: <i>Oddim</i> versus <i>Ongráol</i> .....	593

彙報 (昭和55年1月～昭和55年3月)

人事異動

(行政職) (転任)

2月1日 文部省大臣官房情報処理課  
吉見賢一 (技術室電子計算機係)

シンポジウム

「日本民族文化の源流の比較研究シンポジウムⅠ——農耕文化——」開催

日時 昭和55年1月28日(日)～31日(水)

場所 国立民族学博物館

摘要 このシンポジウムは日本文化の源流を主として民族学の側からさぐるに当って存在する諸問題の中から、農耕文化の特色とその来歴を知る上で重要な課題を抽出し、その研究の現状と問題点を明らかにし、今後の研究への展望を得ようとするものである。

参加者

◎報告者

- 堀田 満 京都大学教養部
- 阪本 寧男 京都大学農学部附属生殖質研究施設
- 渡部 忠世 京都大学東南アジア研究センター
- 中尾 佐助 大阪府立大学農学部
- 野澤 謙 京都大学豊長類研究所
- 佐々木高明 国立民族学博物館第2研究部
- 小山 修三 国立民族学博物館第4研究部
- 石毛 直道 国立民族学博物館第5研究部
- 大林 太良 東京大学教養学部

◎討論参加者

- 石川 栄吉 東京都立大学人文学部
- 岩田 慶治 東京工業大学工学部
- 氏原 暉男 信州大学農学部
- 加藤 晋平 筑波大学歴史人類学系

- 国分 直一 梅光女学院大学文学部
- 小松 和彦 信州大学教養部
- 高取 正男 京都女子大学文学部
- 高谷 好一 京都大学東南アジア研究センター
- 竹村 卓二 国立民族学博物館第1研究部
- 田中 琢 奈良国立文化財研究所
- 谷 泰 京都大学人文科学研究所
- 坪井 洋文 国学院大学文学部
- 西田 隆雄 東京大学農学部
- 福井 勝義 国立民族学博物館第3研究部
- 松山 利夫 国立民族学博物館第1研究部
- 宮本 常一 武蔵野美術大学
- 守屋 毅 国立民族学博物館第1研究部

日程

1月28日(月)

13:00—13:30

開会——「開会にあたって」

座長：祖父江孝男  
梅棹 忠夫

13:30—15:00

セッション(1)——「問題提起」

座長：竹村 卓二  
佐々木高明

15:00—15:30

休憩

15:30—17:30

セッション(2)——「東アジア地域のイモ型有用植物について」

報告者：堀田 満  
座長：石毛 直道

1月29日(火)

10:00—12:00

セッション(3)——「日本とその周辺の雑穀」

報告者：阪本 寧男  
座長：福井 勝義

12:00—13:00

昼 食

13:00—15:00

セッション(4)——「イネの起源と展開—  
アッサム・雲南起源説  
から—」

報告者：渡部 忠世

座 長：佐々木高明

15:00—15:30

休 憩

15:30—17:30

セッション(5)——「東アジアのムギ農耕  
論」

報告者：中尾 佐助

座 長：谷 泰

1月30日(水)

10:00—12:00

セッション(6)——「日本家畜系統論」

報告者：野澤 謙

座 長：福井 勝義

12:00—13:00

昼 食

13:00—15:00

セッション(7)——「焼畑から水田稲作へ」

報告者：佐々木高明

座 長：小山 修三

15:00—15:30

休 憩

15:30—17:30

セッション(8)——「非稲作から稲作へ—  
ポピュレーション・ダ  
イナミックス—」

報告者：小山 修三

座 長：松山 利夫

1月31日(木)

10:00—12:00

セッション(9)——「稲作の食事文化の特  
徴」

報告者：石毛 直道

座 長：守屋 毅

12:00—13:00

昼 食

13:00—15:00

セッション(10)——「非稲作と稲作の神話  
と儀礼」

報告者：大林 太良

座 長：竹村 卓二

15:00—15:30

休 憩

15:30—17:00

セッション(11)——「総合討論」

座 長：佐々木高明

17:00

閉 会

#### 海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
宮本 勝	助手(第5研究部)	55. 1. 5	55. 4. 30	フィリピン共和国
杉田 繁治	助教授(第5研究部)	55. 2. 4	55. 2. 9	大韓民国
加藤 九祚	教授(第4研究部)	55. 2. 8	55. 2. 15	ソビエト社会主義共和国連邦
梅棹 忠夫	館 長	55. 2. 15	55. 2. 28	オーストラリア
石毛 直道	助教授(第5研究部)	55. 3. 27	55. 5. 10	香港, マレーシア, インドネ シア, シンガポール, フィリ ピン共和国

来館者抄

- 1月8日 高 光林 (Professor, Central Connecticut State College)
- 21日 堀越 増興 (東京大学教授 海洋研究所)
- 25日 アドナン・ブンニー (シリア・アラブ共和国考古総局発掘局長)
- 31日 上田 篤 (大阪大学教授 工学部)  
William F. Ellis (Director, The Art Gallery of Western Australia)
- 2月4日 藤本 正己 (佐賀大学教授 教養部)  
ウイチット・スリサアン (タイ国大学庁次官補)  
ニンナルト・オランボラブット (タマサート大学・経営学大学院長)  
スリン・セタマニット (チュラロンコン大学・環境研究所長)  
ピシット・ボラウライ (チェンマイ大学・副学長)  
ジャタナ・ナガバジャラ (シンパコン大学・副学長)  
ニコム・タダング (スコタイタマテイラト大学教育部長)  
ビブーン・フィニットアクソン (タイ国大学庁渉外部長)  
トング・イン・ウオングソトルン (スコタイタマテイラト大学副学長)  
山田 勇 (京都大学東南アジア研究センター)
- 12日 Tibor Sekelj (Membership Secretary, International Committee for Museums of Ethnography)
- 3月3日 山上伊豆母 (帝塚山大学教授)
- 13日 Claude Lévi-Strausse (Professeur, Collège de France)
- 14日 Mr. Md. Abu Saleque (バン格拉アシュ・ユネスコ国内委員会事務局文化コミュニケーション担当)  
Mr. Yong Joo Kim (韓国・ユネスコ国内委員会事務局教育担当)  
Mr. Abarquez Villaflor (フィリピン・ユネスコ国内委員会事務局教育・社会科学担当)  
Mr. D. S. Armstrong (スリランカ・ユネスコ国内委員会事務局総括庶務担当)  
Mr. Pichit Chumvichtra (タイ・ユネスコ国内委員会事務局対外連絡担当)
- 22日 Dr. Emil Q. Javier 夫妻 (Chancellor・University of the Philippines)  
Dr. Fernando A. Bernardo 夫妻 (President・Visayas State College of Agriculture)  
Dr. Amado C. Campos 夫妻 (President・Central Luzon State University)
- 25日 猪 初夫 (新潟大学長)  
手呂内利之 (同 事務局長)
- 26日 タム・セオンチー (シンガポール大学)  
福崎 久一 (アジア経済研究所)

## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認めたる者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のすみ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万国博記念公園  
国立民族学博物館内  
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）



## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限りに、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

【柳田 1942: 67-69】

【Leach 1961: 123】

【柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123】

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

【柳田 1942a: 20-22】【柳田 1942b: 10】

9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
  - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
  - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.  
In Eric H. Lenneberg (ed.), New Directions in the Study of Language,  
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀 一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 5卷2号

監 修  
梅 棹 忠 夫  
編集委員長  
加 藤 九 祚  
編 集 委 員  
竹 村 卓 二  
垂 水 稔  
中 村 俊 亀 智  
藤 井 知 昭  
吉 田 集 而  
和 田 正 平

---

昭和 55 年 10 月 20 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 5卷2号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市山田小川41-1  
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155 (代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol. 5 no. 2  
June 1980

- |                     |   |
|---------------------|---|
| NAKAMAHI, Hirochika | Japanese Religious Mediums and Folk Belief among Japanese Americans in Hawaii: Female Mediums on Oahu Island                |
| SEKIMOTO, Teruo     | Paddy Fields and Complementary Occupations: Economic Life in a Central Javanese Village                                     |
| NAGANO, Yasuhiko    | Tibetan Color Terminology   |
| OIKAWA, Akifumi     | A Jomon Shellmound Database: Its Compilation and Application  |
| MIYAMOTO, Sadaaki   |   |
| KOYAMA, Shuzo       |   |
| HACHIMURA, Kozaburo | A Versatile Software System for Ethnological Data Analysis  |
| SUGIMOTO, Hisatsugu | An Ethnological and Geographical Study of European Rural Houses, with Special Reference to Rural Houses in Open-Air Museums |
| AKIMICHI, Tomoya    | A Note on Palauan Food Categories: <i>Odóim</i> versus <i>Ongráol</i>   |



National Museum  
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X